

蘇れ！緑の森 ボランティアによる山火事跡地復旧植樹活動

～地域交流を伴った県民参加型森林整備の試みについて～

所 属 宮城県大河原産業振興事務所 技術主査 小 泉 智

1 はじめに

平成14年3月17日に丸森町北西部廻倉地区で発生した林野火災は、一昼夜にわたり燃え広がり、焼失面積約160ha、被害総額3億円を超え、県内では昭和57年に県民の森で発生した火災に次ぐ大惨事となった。焼失した森林の約80%は、アカマツやスギを主体とする人工林で、所有形態は焼失面積の約50%にあたる75haが町有林であり、残りの50%が私有林とその他国有部分林であった。



写－1 林野火災被災状況

被災後、町では山林火災復旧対策推進委員会を設置し、県と町の合同により復旧方法の検討が行われ、未曾有の大惨事となった今回の林野火災を契機に、①森林の恩恵を受けている県民に対し、森林の大切さや森林を守り育てることの重要性を理解してもらい、②森林所有者(被災者)の造林意欲の喪失や経営意欲の減退を和らげ、③新たな森林づくり支援者を創出するとともに、④町民と町外参加者との交流により地域振興を図るため、町を実施主体とし、今後の森林整備の先導的モデルの一つとして、地域交流を伴った県民参加による滞在型植樹活動を実施することになった。

2 取組の成果

植樹活動は、恒例となった地元物産市に合わせ、平成15年5月10日(土)～11日(日)に実施された。町では今回の活動をアピールするため「緑の復旧プロジェクト」と命名し、今後も継続される被災地復旧のための一連の植樹活動を総称するものとした。



写－2 植樹の状況

当日は、福島県や仙台市など県内外からの一般応募者や町民など合わせて約150名が参加し、被災した町有林約2haにヤマザクラ、カスミザクラ等の広葉樹の苗木約4千本を5班に分かれて植樹を行った。植樹後は町内の国民宿舎へ移動し、専門家による「森林の働きを考える」をテーマにした講演に耳を傾け、森林に対する理解と関心を更に高め、講演後は地元食材による夕食を囲みながら町民との地域交流を楽しみ、翌日は町役場前で行われた地元物産市「丸森いち」に参加した。

参加者からは「植樹活動は楽しくてやり甲斐があった、是非また参加したい。」「10年・20年後に育った木を見に来たい。」等のほかに、「交流会は良かった。料理が美味しかった。」等の感想が聞かれ、植樹活動から交流会に至るまで、当初の目的を達成することができた。

3 今後の課題

林業就業者の高齢化や不在村森林所有者の増加等により、適切な手入れが行われない森林が増える中、県民参加による森林整備活動は、新たな森林づくり支援者の創出という観点から、今後ますます重要な活動になる。

植樹活動の参加者に行ったアンケート調査によれば、参加者の多くが以前にもボランティア活動に従事したことがあり、今回の活動について、「楽しかった」「やりがいがあった」と答えている。また、「このような活動があれば次も参加したい」とする人が殆どであり、活動に参加する人は、ある種の「やりがい」を求めているものと思われる。この「やりがい」を達成させ、充足させることが、県民参加による森林整備活動を持続させるためのキーポイントであり、そのためにも、県民ニーズの把握、県民の森林整備に対する意識の向上、主催側の実施体制の確立(受け皿づくり)が必要である。そして、何よりも県民が森林とふれ合える場を増やしてゆくことが不可欠である。



写-3 植樹活動を終えて